

憲法理念と国民の力量に溝

日本の民主主義はどこまでできたか

神戸女学院大学教授 石川 康宏

「クライシス」は日本語で「危機」と訳しますが、本来の意味は「転換点」だといえます。まさに今の日本は、民主主義の危機であり、それは同時に転換のチャンスでもあります。日本の民主主義の到達点について、神戸女学院大学教授で日本平和委員会代表理事の石川康宏さんに寄稿していただきました。(2回連載。下は4月5日号に掲載予定)

自由権から社会権へ

民主主義を体現する力を 君臨してました。王は生もった主権者の成長を考え 分制の社会です。農民や商人などの子どもはどんなに 中世のヨーロッパには、 王が絶対的な権力者として

しかし、そこには生ま 身分制にしろられない「自 由権」を手にいれられた。 思想・信条、職業、転居の自 由なことです。しかし、人々

明治憲法は近代以前

平和的に権力を交代させる だけの権限をもった議会や 選挙がありません。そして、 人々の平等を実現する社会 づくりの取り組みは、血を 流して王から権力を奪う他

次に、日本の歴史を見て みます。 明治政府による大日本帝 国憲法(1890年施行) は、自由権を保障する近代 憲法と言えるものであり ませんでした。何よりの

歓迎されたのは9条

その結果、この社会は、 小林多喜二がたぐさんの小 説で告発せねばならないも のとなりました。「軍艦」 ではたらく労働者は棒で殴 られ、銃で脅されていまし

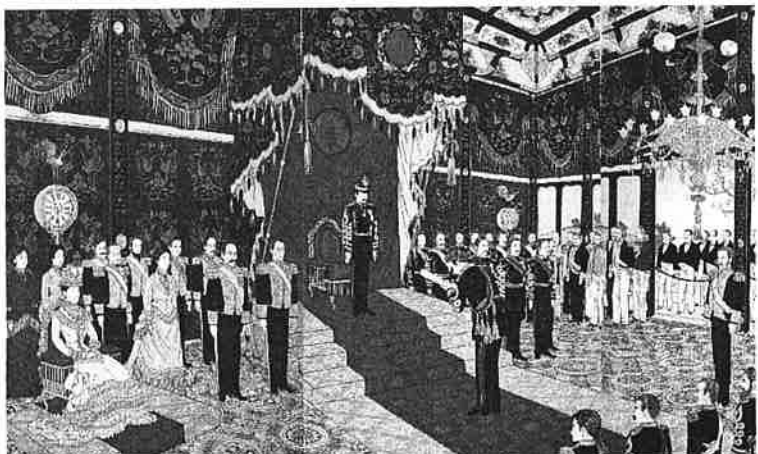
その結果、日本国憲法の 優れた理念と国民の民主主 義を体現する力量に大きな 溝が生れます。たとえは 憲法は、国民の基本的人権 を「人類の多年にわたる自

本中にあり、最後は空から 爆弾が降る毎日だった。そ の苦勞からようやく抜け出 すことができる。この喜び は何物にも代えがたいもの でした。 しかし、その他の理念へ の理解は曖昧でした。憲法 の内容が決まった1946

いま、戦争を体験した人 たちは日本社会の1割程度 にまで減っています。平和 憲法を切望するリアリティ が薄れています。しかし、 他方には9条に限らず、「個



フランス・パリの労働者を中心として自治政府を打ち立てたパリ・コミューン(1871年)



大日本帝国憲法の発布式(明治22年2月11日)。明治天皇が黒田清隆首相に憲法を手渡した